

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100013		
法人名	医療法人 崇敬会		
事業所名	グループホーム「さくら」 東館		
所在地	福島県田村市船引町船引字馬場39－1		
自己評価作成日	平成25年11月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成26年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・併設医療機関がある為、健康管理への対応が迅速に行える。
- ・ご家族との信頼関係を大切にしている。
- ・ご家族参加の季節行事がある。
- ・その人らしい生活が送れるよう支援している。
- ・田んぼや畑に囲まれた静かな環境。敷地内に畑がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 同敷地内に法人の介護老人保健施設があり、各施設との非常時の連携体制が整っている。また、敷地内には同法人の医療機関が併設されており、緊急時等の医療が受けられる体制となっている。
2. 平屋作りで広々とした共用空間には食堂、居室、和室が機能的に配置されている。浴室(洗い場)を含めて床暖房となっており、心地よい環境となっている。各居室は間取りが異なり、利用者が自分の居室と戸惑わない配慮がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に留まりやすい所に掲示し、共有を図っている。また、実践につながるよう努力している。	開設当時、職員全員で作成した理念は玄関、事務所等の目につきやすい場所に掲示されている。理念に基づき具体的活動指針を作成し、会議等でも読みあげ、日々のケアの中で職員全員が共有し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方達と挨拶を交わす事を大切にしている。日常的に事務所の広報誌を配付する計画を考えている。	家族を招待しての流しそうめん、団子さし、節分等季節に合わせたイベントを開催している。積極的に傾聴ボランティアを受入れたり、日頃より近隣住民との挨拶を大事にして、地域との基盤作りに積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて活かしていない。どの様にすれば活かせるか考えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期開催を怠ってしまったので、行えるよう努力する。会議で出た意見等は必ず職員会議で報告し検討している。	家族の代表、区長、地域包括支援センター職員等が参加している。運営推進会議では入居状況や事故予防処置報告等がなされているが開催回数が少ない。	運営推進会議からの意見を活かし、サービス向上に繋げるために年度計画等を作成し、定期的な運営推進会議の開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取り合い連携を図っている。	事業所の現状や介護の課題等については担当者に相談しアドバイスを受けて、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない為の工夫について、その都度職員間で話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修会等を通して全職員が身体拘束の弊害を自覚しており、拘束のないケアを実践している。また、言葉による拘束についても全職員で意識を共有し、日々のケアにむずびつけている。玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われる事の無いよう職員全員が努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、必要時に活用できるよう学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行うように努め、不安や疑問点を伺ってきちんと理解・納得して頂けるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見・要望を伺い、職員会議等で話し合って反映できるように努めている。	家族と交流できる機会づくりを行っている。面会時や利用者の状況報告等の際に家族からの意見、要望等を把握している。出された意見等も職員会議等で検討し、サービスの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議で意見や提案を出す機会を設け、それを代表者に伝えている。	職員からの意見や提言等は定期的を開催する職員会議で把握し、職員は管理者に何でも話せる体制となっている。出された意見等は代表者に伝え、運営に取り入れられる仕組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価も考慮し、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や必要性を考えて配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会がないので、今後取り組みめればと思う。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の内容や実際にコミュニケーションを図ることで、本人の不安や要望を把握しそれらの改善に向けたケアを通して安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査等で家族の不安や要望を把握し、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で他のサービス利用が合っていると思われる場合は、そちらを紹介したり助言したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は一緒に行っている。何かを教えてもらったり時には相談を聞いてもらう事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を伝え本人の対応について相談したり、家族が思っている事を伺ってケアに反映させたりしながら、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由。家族と外出したり職員とドライブで自宅方面に行けた方もいたが、全員が同じ状況ではなく継続は難しい。	利用者のこれまでの人間関係や生活習慣等を把握し、友人が訪問したり、なじみの理容所が利用できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して見守ったり、職員が間に入って関わり合いが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても相談があれば対応できる。退居後の入院先に面会に行く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの聞き取りや日頃の様子から把握に努めている。困難な場合は、集めた情報を基に職員間で話し合い本人本位に検討している。	職員は日々のケアを通じて利用者に声をかけ、思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者については家族や関係者より情報を得て会議等で話し合い、利用者本位の意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査やセンター方式を活用し、本人や家族から聞き取りする等して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックや日々の様子を観察・記録して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意見を基に会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。2回目以降はモニタリングで得た本人の変化等も踏まえて見直しをしている。	利用者や家族の意向、ケース記録等に基づきモニタリングを行い、現状に即した介護計画書を作成している。また、利用者の身体状況の変化を確認し、職員全員で意見交換を行い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に沿った内容を細かく記録し、各自で読んだり申し送りで情報を共有している。実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時にあった支援ができるよう話し合いながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアや朗読奉仕の方々が定期的にきて下さっている。近所の美容室に散髪を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医・急変時の搬送先の希望を確認している。併設医療機関と連携し、定期的な通院介助・緊急時の支援が行っている。	受診は法人の併設医療機関の他、かかりつけ医で受診できる様にしている。受診の際は文書や口頭で医療機関と連携を取り、結果は各利用者の記録簿に記載し、職員との情報の共有化を図り支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師がいる。毎日の健康チェックや日々の関わりの中での変化や気づきをその都度報告・相談し、適切な受診・看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者からの連絡・相談には随時対応している。併設医療機関との関係作りはしっかりとできているが、他病院とは難しい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応に関する指針の書類で事業所でできる事を十分に説明し理解を得ている。体調の変化に応じてその都度報告・話し合いをしている。	入居時に「重要事項説明書」に基づき重度化した場合の対応に関する指針を説明し、同意書を得ている。入居後も体調の変化に応じて主治医、家族、職員等関係者でその都度協議して、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応するようになっているが、定期的な訓練は行っていないので行いたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。目の付く所にマニュアルを貼り日頃から意識できるようにしている。十分な協力体制を築けるよう努力したい。	全職員で通報訓練、初期・消火訓練と多様な場面を想定した消防訓練を実施している。また夜勤者は夜間マニュアルに沿って夜間避難訓練を行い、安全・適切に避難誘導できるように対応している。消防署立会いの総合訓練も予定している。災害時の食料品等は法人が一括して備蓄している。	消防署と地域住民の協力を得ての総合防災訓練を計画し、防災連携体制の構築を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない対応に努めているが、反省する事もある為更に努力したい。	利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない利用者本位の対応に努めている。特に入浴やトイレ等を利用する場合は自尊心を傷つけない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の理解力に合わせた声かけを行っている。会話が難しい方には、2択の質問や反応の良さを見て思いを汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・おやつの時間以外は本人のペースで過ごせるように支援したいが、職員側の都合に合わせてもらう事もある。できるだけその人らしい暮らしが送れるよう支援したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好む色の把握、着たい服を選んでもらったり似合う物を選ばせてもらい、おしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理や片付けを職員と一緒にしている方がいる。食事介助を必要とする人が増え、皆と一緒に食事を味わう事は難しくなっているが、楽しい時間になるよう努力はしている。時々出前を取っている。	食事は利用者の好みや体調に合わせ、量や盛り付けを工夫し美味しく食べられるよう配慮している。また、利用者と一緒に食事の後片付け等をしたりして支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立で調理している。一人ひとりに合わせた食事形態・量を提供し、毎食摂取量をチェック。体重の増減も考慮している。自宅での習慣を取り入れている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合わせた方法で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせて排泄介助を行っている。オムツの方でも希望時にはトイレ誘導をしている。使用している物が合っているかを状況に合わせて検討している。	一人ひとりの排泄状況を記録や申し送り事項から把握している。パットやオムツの使用も、個人の排泄量に応じてサイズ等を変えたり、日々の生活が快適に過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っている。便秘気味の方に乳製品を提供したりしているが、下剤内服でコントロールしている方が多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎朝入浴の希望を確認している。定期的に入れるように促す事も多い。曜日の決まりは無いが、時間帯は職員の都合がつく範囲で選んでもらう事が多い。	浴室はリフト浴と機械浴ができるようになっている。浴槽内にも床暖房が完備されているため、利用者は快適に入浴を楽しんでいる。入浴剤で変わり湯も楽しんでいる。入浴を拒否される利用者には、順番を変えたり別職員が誘導したり一人ひとりにあわせた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調・気分に合わせて対応している。気持ち良く休めるよう室温調整やベッド周りの環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情を一冊のファイルに綴じ、いつでもすぐに確認できるようにしている。薬の変更があった場合は、特によく観察し記録に残している。誤薬の無いよう服薬介助に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事・やりたい事によって役割があったり楽しみ事をしたりしている。昔の話等を聞く機会もあるが、全員に十分な支援ができていないと言えないので努力したい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って対応できるよう努めているが、職員側の都合に合わせてもらう時もあり、全員に日常的な支援を行うのは難しい。地域の人々に協力を仰ぐような支援はできていない。	季節に応じた行事計画（花見、町内散歩等）が実施されている。また、家族等の協力を得て外出・外泊もしている。利用者の体調や希望を尊重して無理をしない範囲で、行事やドライブ等への外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ自己管理してもらう事も可能だが、現在は全員事務所で管理している。必要に応じ自由に使用できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけている。定期的に家族宛にハガキを書く方がおり、準備・投函の支援を行っている。家族宛に年賀状を出した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差し・室温に配慮している。季節に合わせた掲示物・生活風景の写真・個人の作品等を掲示し、居心地のよい空間づくりに努めている。	施設全体に床暖房が完備されている。天窓から優しい光が入り共用スペース全体が明るく心地よい空間である。畳敷きや大きなウッドデッキもある。玄関や壁面には、職員と利用者が一緒に作った季節に合わせた折り紙や切り絵、ぬり絵が飾られ楽しい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが好きな場所で過ごせている。それぞれに定位置もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	備え付けの家具がある為自宅からの持ち込みは少ないが、馴染みの物(だるま・写真・ぬいぐるみ・アルバム等)や家族写真を飾って居心地良く過ごせる居室作りをしている。ベッドやタンスの位置も、一人ひとりが動きやすいように考えている。	居室は利用者の生活習慣に合わせベットの設置したり、畳での生活を好む利用者は畳と布団を持ち込んだりして居心地良く暮らせるよう配慮している。また、馴染みのものが配置され、個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の戸に目印を付けたリトイレが分かりやすいように張り紙をしたり、ぶつかると危ない所にはクッション材で保護をして、安全に自由に動けるような対応をしている。		